

## ◇国際会議報告◇

**CMAC 会議（2026年3月）出席報告**

公益社団法人日本証券アナリスト協会

企業会計第2部長兼国際第2部長

企業会計基準諮問会議委員

サステナビリティ基準諮問会議委員

土谷 敬

**1. はじめに**

2026年3月13日、資本市場諮問委員会（Capital Markets Advisory Committee、以下「CMAC」という。）がオンラインで開催された。CMACは、世界各国の財務諸表利用者の意見を国際会計基準審議会（IASB）に対して定期的にインプットすることを目的に創設された組織である。日本からは、筆者がメンバーとして参加した。

**2. 議事一覧**

予定時間（ロンドン時間）	Agenda 番号	議事
11:05-11:20	1	IASBの活動報告
11:20-12:30	2a	キャッシュ・フロー（CF）計算書及び関連事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>非資金取引及びその他の非資金変動</li> </ul>
12:30-13:00	3a	IFRS第9号の適用後レビュー—ヘッジ会計
13:15-14:00	2b、2c	CF計算書及び関連事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>デリバティブ及び政府補助金の受領から生じたCFの分類</li> <li>財務活動から生じた負債の変動</li> </ul>

本稿では、会議で議論された主な内容について説明する。詳細な議事概要については、IFRS財団ホームページに掲載されている Meeting Summary<sup>1</sup>を参照されたい。

**3. 議事概要****（1）CF計算書及び関連事項****非資金取引**

本セッションでは、非資金の投資活動及び財務活動の取引に関する新たな開示案として、IAS第7号「キャッシュ・フロー計算書」（以下「IAS第7号」という。）に基づく2つの

例が示された。非資金取引の影響を、代替案 1 では、CF 計算書の構成に沿って同等の資金取引と並べて表示するもので、代替案 2 では、注記に開示された関連する資産・負債の期首残高から期末残高への調整表の中で分解表示するものである。

筆者を含む CMAC メンバーの大多数は、単独で選択する場合には代替案 2 を支持したが、両案を組み合わせることで追加的な便益が得られるとの意見もあった。代替案 1 については、非資金取引の把握や企業間・時系列比較に有用との評価がある一方、表示の分かりにくさや「合計」欄の概念の不明確さなどへの懸念も示された。これに対し、代替案 2 は、財政状態計算書上の残高変動の構成要素を包括的に理解できる点で有用との意見が多く、投資家に馴染みのある形式である点も評価された。

### **その他の非資金変動**

本セッションでは、運転資本を構成する売上債権及びその他の未収金、棚卸資産、並びに買入債務及びその他の未払金について、非資金取引による残高変動をどのように開示するか案が示された。これは、財政状態計算書及び CF 計算書に示される残高変動の内訳が分かりにくいとの投資家の指摘を踏まえたものである。

ほぼすべての CMAC メンバーは、これらの非資金変動に関する情報があれば理解可能性が向上すると評価し、単一の注記での開示が有用との意見もあった。一方で、対象とする資産・負債の範囲については、契約資産・負債の含め方や業種特性、重要性に応じた分解、企業ごとの運転資本の定義、セグメント別開示などが検討点として挙げられた。また、調整項目として「その他」を設けること自体は容認されたが、その金額の重要性や重要な相殺の有無には注意が必要との意見が示された。

### **デリバティブから生じた CF の分類**

本セッションでは、デリバティブから生じた CF の分類の一貫性を高めるため、①ヘッジ対象項目と同一区分とする案、②営業活動区分とする案の 2 案が示された。

一部の CMAC メンバーは①を支持し、分解表示の粒度や例示の有用性、作成者コストへの配慮を指摘した。一方、②を選好する意見もあり、ヘッジ活動によるキャッシュへの全体的影響を把握しやすい点が理由とされた。

### **政府補助金の受領から生じた CF の分類**

本セッションでは、政府補助金の受領から生じた CF の分類の一貫性を高めるため、①関連する資産・負債又は費用の CF と同一区分とする案と、②営業活動区分とする案が示された。

コメントした CMAC メンバー全員が①を支持し、区分を一つに定める場合は営業活動又は財務活動を選好する意見が分かれた。また、政府補助金を非経常項目として分解表示すべきとの意見や、非継続事業に関連する補助金の分解表示が有用との指摘もあった。

## 財務活動から生じた負債の変動

本セッションでは、財務活動から生じた負債の変動に関する開示について、2つの例が示された。背景として、IAS 第7号では当該変動の開示が求められているものの、投資家にとってはCF計算書など主要財務諸表との対応関係が分かりにくいとの指摘があることが説明された。代替案1は、借入金やリース負債など負債の性質別に期首残高から期末残高への調整表の中で分解表示するもので、現金及び現金同等物の変動も含めるものである。これに対し、代替案2は、営業活動から生じたCFから財務活動から生じた負債の純増減への調整を示す形式である。

筆者を含む一部のCMACメンバーは、代替案1について、体系的で理解しやすく、財務諸表間の関連性が明確であり、借入金とリース負債を分解表示している点や、英国で用いられるネット・デット指標との整合性を評価した。

## (2) IFRS 第9号の適用後レビュー — ヘッジ会計

本セッションは、IFRS 第9号「金融商品」（以下「IFRS 第9号」という。）におけるヘッジ会計の適用状況と、IFRS 第7号「金融商品：開示」（以下「IFRS 第7号」という。）に基づく関連する開示の有用性について、CMACメンバーの意見を聴取することを目的として実施された。

改訂後のIFRS 第7号の開示により、企業のヘッジ会計活動やリスク管理戦略に対する利用者の理解は向上したとの評価が示され、特にリスク・エクスポージャー及びリスク管理戦略、デリバティブの帳簿価額や損益、ヘッジ関係のバランス再調整や有効性の把握に活用されているとされた。一方で、情報の詳細度や分解レベルにはばらつきがあり、ヘッジ非有効部分の開示が不十分な場合や、定量情報とリスク管理戦略との関係が分かりにくいとの指摘もあった。さらに、ヘッジ関係のバランス再調整や終了、有効性が低下する要因に関する追加情報、並びに将来志向のリスク管理情報の重要性が示された。

## 4. 次回の予定

次回のCMAC会議は、世界作成者フォーラム（Global Preparers Forum、GPF）との合同会議となり、2025年6月18日及び19日の開催が予定されている。

---

<sup>i</sup> IFRS 財団ホームページ

<https://www.ifrs.org/content/dam/ifrs/meetings/2026/march/cmac/meeting-summary.pdf>